

# 磐城時報

行發日七  
印刷所 磐城時報社  
印刷人 岡田弘成  
印刷部 岡田弘成  
發行所 磐城時報社  
一部金五銭 一月金五拾銭  
廣告料 一行十四字五拾銭  
日刊(日曜祝祭日) 翌日休刊

## 各方面の名士を網羅 銃後指導講習を開催 佛教護國團平本部の結成式

既報、平市、石城、相馬、双葉の各市三郡各宗寺院僧侶は一致團結して福島縣佛教護國團平本部を結成すべく準備中であつたが、愈々来る十一日紀元節の佳辰を以て平市公會堂で結成式を舉行、併せて第一回事業として銃後指導講習會を開催することになつた。

結成式は當日午前十時から開演、第一日畫の部は本部長の挨拶に次いで福島高商教授久保田英一氏の「物資統制問題」に關する講話ならびに外一名(講師)交遊團御井井藏常福寺住職純榮師(中)の講話があり、夜は午後六時から神武御創業を偲ぶ海の夕陽を關照。

桐原英純師(平市菩提院住職)の開演、野人大鑑氏の護國團誕生に對する講話、元第二師團長井上一治中將の講話の後、海軍省貸下の映画「輝く軍艦旗」「建艦競争時代」「フランス海軍の全貌」「感南郷少佐」を映寫。

青治平市長の發聲で萬歳を三唱し閉會、第二日は會場を第三小学校講堂に移し午前十時開會、赤土興業師(内郷村白水願成寺住職)の開演に次いで

## 講習會の日程

第一日畫の部は本部長の挨拶に次いで福島高商教授久保田英一氏の「物資統制問題」に關する講話ならびに外一名(講師)交遊團御井井藏常福寺住職純榮師(中)の講話があり、夜は午後六時から神武御創業を偲ぶ海の夕陽を關照。

桐原英純師(平市菩提院住職)の開演、野人大鑑氏の護國團誕生に對する講話、元第二師團長井上一治中將の講話の後、海軍省貸下の映画「輝く軍艦旗」「建艦競争時代」「フランス海軍の全貌」「感南郷少佐」を映寫。

青治平市長の發聲で萬歳を三唱し閉會、第二日は會場を第三小学校講堂に移し午前十時開會、赤土興業師(内郷村白水願成寺住職)の開演に次いで

## 四倉商業報國會 銃後會寄附割當決る

四倉町商業報國會では昨報の如く舊正月初賣出し品廢止代を平樂の得意先たる四倉、大浦、大野、久之濱の各町村銃後會へ寄附することに於て六日夜役員會を開き寄附割當を協議の結果左の如く決定した。

△二百五十町四倉町銃後會△五十町大野村銃後會△五十町大浦村銃後會△五十町久之濱村銃後會△五十町大野村銃後會△五十町大浦村銃後會△五十町久之濱村銃後會

## 濱通り署長會議 警防團組織準備のため 来る十七日平署で開く

傳統を誇る消防組の機構を近代化に改新せんとする警防團結成につき濱通り各警察署長會議は十七日平署で開催されることに決定、當日は縣から青柳警察部長、木村警務部長、佐藤防空主任等が警防團令の運用に就き指導を受ける。

## 香奠返しを寄附 渡邊上等兵村葬に佳話

草野村大字泉崎出身、歩兵上等の事業指導を受ける渡邊三左衛門君の村葬は六日午後一時から小學校庭で執行されたが同君の遺族は香奠返しを全廢し同村各種團體へ金百六十圓を寄附し村民を感激させた。

## 署内外大掃除 平署勤務奉仕 十三日試験場

平署では日本精神發揚週間第三日を勤務奉仕デーとして本署署長以下全署員が午前六時半に出署、署内外の清掃を行った。

## 農事指導 本縣指導農場 飯野村北土部落では八、九農事試験場農産主任豊吉政三技師指導

飯野村北土部落では八、九農事試験場農産主任豊吉政三技師指導、本縣指導農場、農事指導農場、飯野村北土部落では八、九農事試験場農産主任豊吉政三技師指導。

### 中野齒科

院長 中野 恵次  
平市田町(電五〇九)

雄○菅波康太郎○佐藤熊蔵○十町新町吉田彌十郎○同豊田盛治○同長谷川儀平○同大和田千子○同田中岩次郎○同水口忠助○同村田才之助○同仲町新妻盛○同本町鈴木茂助

### 井尻氏鑛山經營に いよいよ乗出す

十八、九日頃平で創立總會

平市銀治町平鑛鐵機商會代表高久村大字馬場では公會堂共同井尻七三郎氏は既報の如く山形縣東村山郡逢坂山村所在の著名な大門鑛山を買収したが、有力な井尻氏が經營を他に移すか否やを注目されてゐた處、有望な山であり且つ時局柄經營することの有難なことを説かれ、財界でも有名な岡田菊次郎氏の後援で資本金百萬圓(全額拂込み)の栗川鑛山鑛業株式會社を創立することに決定、来る十八、九日頃平市で創立發會式を舉げることに成つた、社長は岡田氏直系の杉山實治氏を推し、井尻氏が専務取締役に選任される筈で本社は當分井尻氏の事務所を充てる予定である、會社創立と同時に企業費五十萬圓を投じて採鑛設備を擴大することに成つて居り前途を囀りされてゐる。

## 社告

皇軍一度び暴支膺懲の爲めに起つて以來茲に一年有半敵が最後の據点となつた武蔵三領も既に陥落して事變は今や長期建設の段階に入り力強い東亞新秩序の第一歩を踏み出した事は東洋永遠の平和のため同慶に堪えぬ次第である、これ偏に大元帥陛下の御後威の然らしむる所であるが、また一に盡忠報國の一念も國民最高の任務を果しつゝある忠勇なる我が將兵の勇戦奮闘の賜に外ならない

### 皇軍慰問銃後紹介號 發刊

思へば事變發生以來或は百度を越ゆる炎天に、或は零下三十度の嚴寒をもつとせず、頑敵、病魔と戦ひ、困苦欠乏に堪へ忍びつゝ聖戰の遂行に邁進する皇軍將兵に對し我等は涙をもつて感謝を捧げると共に協心戮力銃後國民の資力を果して前線の將士をして銃後の憂無からしめ以て其の意を安んずることを我等の負ふべき重大使命であると信ずる。

小社はここに思ふ所あり銃後紹介號を發刊し事變下にあつて益々發展途上を進む平市の現状と完壁を誇る銃後施設を普く紹介之を現地に在る市出身將士に贈り以て感謝の微意を致さんとす、希くは大方各位の御賛同あらんことを

昭和十四年二月

## 木村醫院

四倉町木村醫院で近日中開業することになり準備中

## 圍碁天狗試合

平法曹を發見調べたところ契約は十三日十月十日となつてゐるので憤慨し本訴に及んだもの、平署で碁山十一日第二校裁縫室で行ふ、主を取調べ中であつたが七日送検

一日一言 野澤武藏

雪中の遭難とスキー  
 平市出身の嶺山成功者三井榮吹きさらしではあるが、若し一氏を社長とする高森嶺山(青行がスキー行軍であつたなら、徐嶺上北郡天間村所在)の嶺山人里との連絡もつき、恐らく十務所長代理岡野義彦氏外十七名一名もの多数が一時に遭難死す、歩兵第五聯隊の雪中行軍遭難のことが無かつたのではあるが、難事件で有名な、八甲田山遭難いか、八甲田山遭難は平常概し代温泉附近で吹雪に襲はれ遭難して来たか、歩兵第五聯隊遭難事件十一名の多数が遂に遭難の機を以てスキーの遭難者も殆んど無柱と成つたことは悔に遺憾とすい平和境だつた、雪を征服するところ、今七日青森市浪打にはスキーを痛切に感ずると同嶺山事務所にて社務を執同時に多数の遭難者に重ねて申行するに際し、心から弔意を表意を捧げ哀願を祈るするものである

新聞紙の報導に依つて見ると今回の遭難事件は、歩兵五聯隊が遭難したと同じ田代街道のやうである、嶺山の位置から見て幾分南部地方に寄つた方向と思はれるが、、筆者の郷里である關係から歩兵五の雪中行軍は深く脳裡に刻まれて居り、二百八十余名の精銳が僅か一名の生還者を出したのみで全滅するなど、スキー術の發達した今日では想像も及ばないが、ガンデキ隊の當時では如何とも致し方が無かつたらしい、然も歩五遭難の日は、青森市内でさへ三日間を通じ外戸を開くことの出来なかつた程の猛吹雪で、遭難將兵は雪穴を掘り鏡尻まで燃料にして救援を待ちながら遂に空しく果々と屍に雪を積み悲壯な凍死を遂げるに至つたものである

高森嶺山所員の遭難は、休暇を利用した田代温泉行きだつたらしいが、一行中一名もスキーを穿かなかつたのが遭難の原因ではあるまいか、田代温泉所在地は八甲田山麓で人家から二里乃至三里位より離れず、後藤伍長の銅像を中心に強風で有名な

強電力氣應用  
 神經痛に特效  
 八ツツ  
 電話 193 町中平

鹽豚  
 平市田町  
 三三三三屋  
 電話三三三番

飲んで腫物の妙薬  
 八方散  
 水野藥局  
 平市一電六九九

神經痛・ロイマチス  
 漢方百草根  
 陸海軍病院御用藥  
 平代理店 丸龜商店  
 平市大町 電話一三三番

婦人藥王 辨天湯  
 主治 子宮病・血の道・ヒステリー・産前産後の諸症・逆上・頭痛眩暈・手足腰の冷込み・こしけ・月經不順……等  
 調劑本舖 小野屋藥局  
 平・四丁目 電話百四十四番

かまぼく製造  
 折詰仕出  
 お惣菜さつま揚・吉原揚  
 平市一丁目  
 配達人至急入用  
 年齢不問、住込の事  
 電話一四一四番

外科 花柳病専門  
 平市六丁目  
 木村外科醫院  
 入院隨意  
 電話三〇九番

冷凍魚  
 日本水産特約(電話三三三六)  
 卸小賣平製氷會社  
 尾瀬平代理店 印魚問屋  
 四丁目電話五三三

スッポン酒 二圓  
 スッポン活血錠 三圓・五圓  
 滋養第一  
 強壯の効  
 美皮トビ  
 若大  
 肉を  
 ぶやし  
 ぬやし  
 肥やし  
 店賣販下縣  
 局藥邊野山 目丁五・平

吉田眼科醫院  
 平市紺屋町(電話六八番)

平市田町(電話五二二番)  
 高久病院  
 院長 高久  
 副院長 赤  
 藥局長 佐竹  
 外科花柳病  
 内科小兒科  
 耳鼻咽喉科

太鼓樂器 各種  
 神社佛閣用太鼓  
 武徳道場用太鼓  
 歡迎迎用音樂隊樂器……等(製品)  
 ……カタログ進呈……  
 平市六丁目  
 佐藤太鼓樂器店  
 電話四八三

タンス・鏡臺  
 御婚禮調度品を  
 取揃へました  
 是非  
 和久井屋  
 御越下さい

猪狩庄  
 外親戚一同  
 昭和十四年二月七日  
 平市四丁目  
 猪狩庄  
 外親戚一同

荊妻シゲ葬送の際には遠路を賜り御厚志の段難有奉候乍略儀以紙上御禮申述斯御座候